

事業所における自己評価結果

事業所名		SEDスクール京都西院		公表日		2025 年 1月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	2	●三人枠の時はそれぞれの配置の確認等で場所を確保しているが、衝動的に走る子が多い時はリスクが高くなると感じる ●同枠に3名来所されると指導室の中でのスペースに余裕がほぼなくなってしまう	3人枠にすることで療育の機会を確保できることもあるため、安全への配慮とバランスを取りながら行っていく。子どもによっては3人だからこそできることもあるため、3人枠の良さを活かせるような取り入れ方を常に検討する。		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		5	●いつもギリギリな感じです ●1人の職員に対しての担当数、セッション数が多い ●急な対応にも答えられない人手不足。有給を取ることに気を遣う ●職員の人数に余裕がなく、事務室に誰もいないなど、非常時対応も難しいと予想される	現在は職員数に応じて利用者数を調整しているが、療育に通いたい方が待機しているお子さん、現在利用している方の振替や追加のご希望に対応していくため、また非常時対応のためにも、今後も職員の採用につながる動きを積極的に行っていく。		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5					
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5					
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	1	業務改善について、職員がなかなか意見を出したり、思っていることを出さずらい場面があった	日々の業務について、全体で意見を出してもらおうと個別に聞く場を設けたり、一度意見を聞いた後に再度確認の場を設けたりするなど、意見を出しやすい雰囲気と場をつくっていく。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者向けの評価表結果を掲示しているなど把握はしていたが、定期的の実施したり、話し合うなどはなかった	保護者による評価表については年に1回実施し、業務改善について話し合う場を設けているが、職員1人ひとりが意見を出しやすいよう、個別に聞く場も設けるなど実施方法を柔軟に変えていく。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	第三者の方が評価を行い、その結果や業務改善している内容などの開示を知らない	第三者評価は現在実施していないため、事業所内で話し合いながら業務改善を行っていく。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		スケジュール調整などをしていただき、研修等受講させて頂いている			
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5						
12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5						
13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		カンファレンスで職員それぞれが意見を出し合い、子どもにとって最適な計画を立てられるよう努力している				
14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		職員全員が計画を意識し、一人ひとりに合った支援立案を心がけている				
15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5						

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	プログラム立案は職員一人ひとりが行っているが、計画を基にわかりにくい部分や必要な情報など相談しあいながら作成している	普段から子どもの様子を共有したり、支援内容について相談したりしており、それぞれの視点がプログラム立案に活かされている。立案前に時間を決めて相談の場を設けた方が良いケースがあれば、必要に応じて対応していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		プログラムが同じでも内容から変化をつけたり、少しずつの変化を保護者様にきちんと説明するようにしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	必ず打ち合わせができる状況ではないが、リスクが高い予想などがある場合は必ず行うようにしている	必要な打ち合わせは互いに声をかけ合って行うことができているが、子どもの様子や支援内容により、必要性に応じて時間を決めて打ち合わせの場を設けるなどしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
関係機関や保護者との連携	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	1	見直しの必要性があるケースがなかった	半年に1回の見直しを行っているとともに、計画実施期間の途中でも、子どもの姿や保護者の要望により、活動内容やねらいなどについては柔軟な対応を行っている。期間途中でも計画を見直した方が良いケースがあれば今後行っていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		非常勤の職員で連携しやすい環境を作ったり提案して下さる人がいる	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5		保護者をとおして文書での情報共有を行っている。必要に応じ会議等も参加できるようにしている	
	28	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	●よくわからない ●現在のところ機会がないが、必要に応じて設けていく	児童発達支援センターの役割について周知を行った。事業所内で解決が難しいケースがある場合や、外部からの助言等が必要な時には機会を設けていく。
	29	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	●地域の中で通所している親子が参加できるイベントの紹介などはしているが、交流、一緒に活動などはしていない ●通所されていない地域の園との交流などはない	人員体制上の難しさはあるが、近隣の施設等の交流について、利用者の課題や療育の目的に照らし合わせながら、実施の可否や方法を模索していく。
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	●あまりないと思う ●毎回の振り返りでの相談対応、グループでの保護者同士でお話する機会、地域の交流会や研修の案内を行っている	療育後の振り返りが毎回あるため、今後も個別の保護者支援を重点的に行い、必要な情報の提供なども同時に行っていく。
	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
33	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		子どもの意思については、日ごろの療育でのかかわりの中で思いをくみ取ったり、確認したりしたことをもとに個別支援計画を作成している		

保護者への説明等	34	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	35	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	36	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループでの振り返りで保護者同士の交流や卒園児様の保護者の方に来ていただき交流していただく機会を設けていた</li> <li>●グループ療育での振り返りで交流を含めた相談対応を行ったり、個別療育の共同プログラムの振り返りなどでも同様のことを行っているが、広く全体に行っていない。きょうだい同士の交流は実施していない</li> </ul>	セッション中にも時間を設けて相談対応できることなど、現在行っている家族支援について、改めて保護者に周知していく。きょうだいも一緒に遊べるイベントを今後も実施したり、特定の時間に集まっていただくことが難しいご家庭が多いため、個別療育時にきょうだい児の相談にも応じていくなど、個別対応が主である事業所だからこそできることを実施していく。
	37	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>●申し入れについては迅速な対応が出来ていたと思うが、保護者からの申し入れがなくても必要と思われる場合の対応の基準が難しい</li> <li>●できている時とそうでない時がみられる</li> </ul>	
	38	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	1		会社全体の活動概要としてはきらきら通信、スクール内のイベント等は掲示やコドモン等で発信しているが、きらきら通信がなくなることもあり、必要に応じて子どもや療育にまつわる情報などの発信を行っていく。
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		研修などで留意点を確認したり、新たに必要なことを提案しあったりして改善し、それぞれ注意している	
	40	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	41	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域との関りはあまりないと思う</li> <li>●通所されているご家族以外を施設に招待するなどはしていない</li> </ul>	地域との交流について、人員体制や、利用者の課題、療育の目的に照らし合わせながら、実施の可否や方法を模索していく。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	43	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	44	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	45	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		<ul style="list-style-type: none"> <li>●掲示物等でどの人にも周知してもらえるようにしていたりするが、保護者の方々が認識できているかは分からない</li> <li>●心肺蘇生訓練などを行った際、掲示とコドモンにて周知している</li> </ul>	
	46	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		デイリーカンファレンスで毎回報告しあっている	
	47	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	48	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			